

緊急企画

我がクラブのコロナ対応

一般社団法人石垣島アスリートクラブ ＜沖縄県石垣市＞

世界中で甚大な被害をもたらしている新型コロナウイルス感染症による影響は計り知れません。クラブが受ける影響も大きく、各クラブで試行錯誤している状況にあります。少しでも全国のクラブの力となるよう、新型コロナウイルス感染症対策に取り組みながら、前を向いて積極的に活動しているクラブについてご紹介いたします。

1 現在のクラブ状況

南の島の温暖な気候 トップ選手の合宿誘致と交流を推進

当クラブは、平成19年に個人の陸上クラブとして立ち上げ、メンバー増加に伴い平成29年に法人化して総合型地域スポーツクラブとして活動の幅を広げました。

南の島の温暖な気候で一年中屋外でのスポーツを行うことができます。また、冬季期間は有名トップアスリートたちの合宿地として活用されており、クラブとしても合宿誘致や選手とクラブ会員の交流を積極的に行っています。

7月に開催された第66回全日本中学生通信陸上大会においては、当クラブ所属の選手が女子走高跳の日本ランキング1位、そして10月に開催された全国中学生陸上競技大会2020にて見事全国2位に輝きました。

- 会員数:348名(10月末現在) 石垣市人口49,000名
(会員内訳=幼児58名、小学生249名、中学生27名、高校生6名、一般8名)
- 種目:陸上競技・幼児体育・児童スポーツ教室・アルティメット・ハンドボール・
タグラグビー(親子参加可)

web配信とLINEグループトークを実施ーコロナ禍の休止期間

石垣市では、離島地区であるためコロナ発生当初は影響も少なく、3月末まではクラブ活動も実施していました。沖縄県内感染者の拡大を受け4月7日から小中学校の臨時休校が発表されると、クラブ活動を休止せざるを得なくなりました。

休止期間中は、web配信による自宅でできるトレーニングの紹介や、中学生メンバーへは各自で取り組める練習メニューの提供を行いました。その際、選手同士の気持ちのつながりを保つためにLINEのグループトークを活用し、それぞれの練習状況の報告会なども行いました。この期間中は全会員を休会扱いとし、会員へは月謝を一部返納するなどの措置をとりました。

民間ホテル内の広場を活用し練習を再開

5月になり学校再開に伴い、スポーツ活動の再開も条件付きで認められるようになりましたが、公共施設が使用できなくなり練習会場を失ってしまいました。その際に、民間のリゾートホテルから「ホテル内芝生の広場を練習に使用していいですよ」との、嬉しいご協力を得ることができ、1クラス当たりの人数制限、練習時間の短縮、感染予防対策の徹底などに気を配りながら練習を再開することができました。この時点で休会としていた会員の50%以上の方が戻ってきました。

休会中の退会者は5%程度 再開後は会員増

コロナの影響でクラブを退会された方は全体の5%程度、それ以外の会員は活動を再開しています。さらに活動再開後に入会した方を含めると、会員数は増加している状況にあります。持続化給付金の活用も行い、今後のコロナ感染対策も考慮しつつ現在はオンライン化も進めながら活動を継続しています。

2 活動再開にあたってのポイントと対策

定期開催していた記録会を復活させる

【ポイント】 DX(デジタルトランスフォーメーション)

毎月定期開催していた「石垣島アスリートクラブ記録会」(幼児は50m、小学生以上は100mを実施)は毎回200名近い参加者があり、クラブ会員は1ヶ月間の練習の成果を発揮し、家族は子どもたちの頑張りを応援できる機会として会員が楽しみにしている活動の一つでした。コロナ禍でこの事業規模だと一度に集まっての開催は困難であるとされていました。しかし、開催を中止にするのではなく、記録会の開催方法について大きな見直しを図りました。

『どうすれば200名の参加者が密にならずに記録会を実施できるか?』という「開催する」ための問を立てることからのスタートでした。密の問題点としては、これまでは受付で人が集中してしまうことや、参加者の組分けから記録会の実施、自身の記録測定後は友達の応援など3~4時間ほど会場内に滞在していたことが挙げられます。

【対策】

1. googleフォームを活用した事前エントリー制

参加者はGoogleフォームで事前エントリー（受付）を済ませ、スタッフ側で指定した開始時間の10分前に準備を済ませてから会場に集合し、記録測定後はすぐに帰宅してもらいました。必要最低限の滞在時間にする事で、参加者が密になる環境を防ぐことができました。

2. 記録会の測定にiPadアプリ(Coach's Eye)を活用

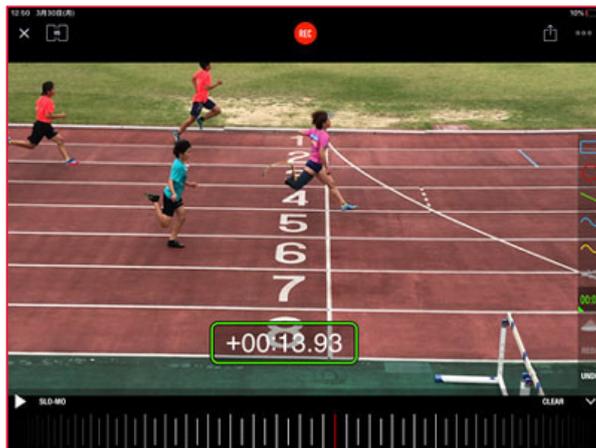
記録測定員の人数を大幅に減らし、ゴール地点での密な状況を緩和しました。iPadアプリを利用したことによる測定時間の短縮と事前エントリー制にしてスタート時間を事前に指定したことでスムーズな運営につながり、記録会の運営時間も60分ほど短縮することに成功。15名ほどで対応していたスタッフ人数も半数以下へ縮小でき、密の回避からスタッフ負担軽減、運営のスリム化まで実現しました。

3. 記録結果をLINEグループで共有

これまで看板などの掲示板で記録結果を公開していましたが、LINEグループを活用することで、保護者もタイムリーに情報にアクセスできるようになりました。

4. 補助事業の活用で、さらなる運営改善を図る

記録会の運営については、よりスムーズに、より多人数にも対応できるよう運営やシステム改良を考えています。そのため日本スポーツ協会の「スポーツ活動継続サポート事業」に申請している状況です。



Coach's Eyeを使った記録測定。パラリンピアンで世界
パラ選手権金メダリスト中西麻耶選手と100m勝負!!

段階的に活動を再開するにあたり、民間施設を活用

【ポイント】 宿泊者がいないホテルの空き敷地を活用

当クラブと協力して冬季期間中に県外からのスポーツ合宿の受け入れをしていただいている宿泊ホテルに相談したところ、コロナ禍の子どもたちの練習会場としてホテル内の敷地を提供いただけることになりました。これまでホテル側に選手の宿泊を積極的に紹介できたこともあり、ホテルからも「クラブに協力します」との快い了承を得ることができ、公共施設以外にも練習会場として有効活動ができるという可能性を発見できました。

ACPの活用で生まれた「クラブ活動の周知」「入会者増」などの相乗効果

【ポイント】安全に安心して練習に参加できる場の提供

アクティブ・チャイルド・プログラム(ACP)のおかげでクラブ会員以外の市民にもクラブ活動を理解・体験してもらえる機会を創出できました。島内の全児童に3,500枚のACP参加呼びかけのチラシを配布。裏面はクラブの紹介文を載せることで、総合型地域スポーツクラブとして活動していることを周知できました。実際に多くの参加者が集まり、クラブ入会にもつながっています。

また、実技指導の助手として、クラブスタッフ以外の地域の方に協力していただくことで、スポーツ指導の楽しさと石垣島アスリートクラブの活動を知っていただき、指導者育成への足がかりをつくることができました。また、日本スポーツ協会の「スポーツ活動継続サポート事業」を活用して、練習器具をそろえることもできました。



ACPプログラム。みんなで元気に宅配便ゲーム



スポーツ活動継続サポート事業で計画している測定システムの構築(構想)

3 取り組み後の反響

【取り組み実施後の声】

参加した子どもたちの声

- 自分の出場時間や一緒に走る選手が事前に分かるのでやる気が出た。
- 記録会の時間が短くなって楽になった。

保護者の声

- 子どもの走る時間が事前に分かり送迎などがやりやすかった。
- 最初はエントリー方法が慣れていなくて、申込みを忘れてしまったが、今は慣れてきた。
- 幼児の子とお兄ちゃんのスタート時間を調整してもらうこともできて、会場に長時間いなくてよいので助かる。

- 施設が利用できない期間は子どもたちが家に閉じこもっていて、とつてもストレスを感じている中、「短時間でも練習をさせていただけて、子どもたちが元気になった」というような保護者からの声が多かったです。(スタッフ所見)

関係機関からの声

- 地元の陸上競技協会からは、石垣島アスリートクラブの記録会で行っているシステムを利用して、中学生の大会運営を手伝ってほしいという依頼がありました。
- ホテルではレストランが営業自粛となっている中、子どもたちの送迎に来た保護者の方がホテルで販売していたお弁当を購入して帰ってくれることもあり、ホテルの方からもお礼の言葉をいただきました。

【取り組み実施後の事務局側の声】

大変だったことやリスク(デメリット)

- 事前エントリーシステムの集計やスタートリスト作成など、事前に行う準備事項が増えました。スタッフもシステムに慣れるまではミスもあり、何度もプログラムを作り直すなど苦労しました。
- 練習時の密を回避するため、運営の少人数化に向けてクラスの細分化を行いました。小規模クラスを数多く回す運営方法になり、担当コーチには通常より長時間のクラス運営をしていただくことになりました。
- 民間施設(ホテル)を利用して活動を始めた際、他の団体が公共施設を使えないため、「どうしてあのクラブだけ活動しているのか？」という声も聞こえてきました。このときは無理に理解を得ようとはしませんでした。その声を解消しようということではなく、「自分たちのやっていることに自信を持って、きちんと感染対策をして実施していこう」とクラブスタッフ内で確認を取り合いました。

リスクを引き受けたことに対するリターン(メリット)

- DX(デジタルトランスフォーメーション)への挑戦により、全体的にはスタッフにかかる負担はかなり減少しました。
- 記録会当日の運営時間が60分ほど短縮できました。
- 課題に対して思考停止するのではなく、自分たちで考えて行動した結果を正解にしていくスキルが高まりました。スキルという一つの経験値が積めたと思います。ここで対応していなければ、アプリを活用した記録会や活動手法はまだ先だったのかもしれませんが。リスクをとって挑戦することで活動場所や手法の選択肢が増えました。

- もちろん世間からの風当たりが強くなることも想定していました。しかし活動しないリスクと活動するリスクを比較し、当時の状況としては、子どもたちに運動機会を提供することが必要だと判断しました。もちろん雇用型で行っているクラブ形態であることから、活動が完全に止まることは、クラブやスタッフにとって死活問題でもあります。結果的には活動も評価され、会員数はコロナ禍休止以前よりも増えています。
- 今、まさに、それぞれの業界や団体がそれぞれのできることを、やるべきことを考えて課題を乗り越えようとしています。大事なことは、自分たちで考えることです。そのためにはリスクを想定し、対策を用意し、起きている課題(コロナで活動ができない)に対して、知識や知恵をこらし、工夫することや早急な意思決定することが大切だと思います。



ホテルのテニスコートがハンドボールコートにピッタリの大きさでした。



練習後にはみんなでホテルの雑草取りも行いました。

4

今後のクラブ運営について

満足度の高い大会運営への支援を推進

離島など、小さな島では大会の運営をするにもスタッフ不足、審判員不足などで陸上競技協会も大会運営が困難な状況にあります。今回チャレンジしたDX(デジタルトランスフォーメーション)による記録会運営のノウハウを活かし、地域での子どもたちが気軽に参加できる体制づくりや、参加者の満足度を高められる大会を創り上げていくための支援を進めていきます。

多くの方が気軽にスポーツにチャレンジできる環境づくり

やはり運動は動物本来の基本的な活動だと思います。自粛ムードにより身体よりもメンタルの調子が崩れた人の方が多かったと思います。

心と身体活動、コミュニティーというのは、健康の定義の要素でもあります。私たちのクラブは、スポーツをする機会の提供により、人と社会とのつながりを創っていきたいと思います。そのためにも気軽にスポーツができる環境づくりをこれからも進めていきます。

(一般社団法人石垣島アスリートクラブ 代表理事 新谷 敦史)

クラブプロフィール

設立年月日 平成19年8月8日(平成29年8月8日法人登記)

所在地 沖縄県石垣市

運営 会員数350名(令和2年11月現在)、予算規模1,000万円(令和元年度)

特徴

- ・離島地域でリソースは限られた中、受益者負担で収益を生み出し雇用型で取り組んでいる。
- ・地域特性を活用した合宿誘致やトップアスリートと会員の交流も積極的に実施。
- ・クラブ運営や大会、記録会のDX化に着手

連絡先 〒907-0003 沖縄県石垣市字平得189番地
TEL 090-8293-5938 FAX 0980-87-0898
URL <http://npoi.ac.rdy.jp/index.html>
E-Mail i.athlete.2007@gmail.com